

第14回全国市議会議長会研修フォーラムへの視察研修報告

- 1・視察年月日 令和元年10月30日（水）午後13時開会
10月31日（木）午前 9時開会

- 2・目 的 議会活性化のための調査研究するため



- 3・視 察 先
高知県高知市布師田3992-2
高知ちばさんセンター
- 4・主 催 全国市議会議長会
- 5・テ ー マ 議会活性化のための船中八策
- 6・定 員 2,300名
- 7・参 加 費 7,000円

5・タイムスケジュール

第1日目 10月30日（水）13:00開会

プログラム内容

第1部 基調講演13:20

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

中島 岳志 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

第2部 14:20

パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井 ゆづる

（朝日新聞論説委員）

パネリスト

高部 正男

（市町村職員中央研修所所長）

横田 響子

（（株）コラボラボ代表取締役

お茶の水女子大学客員准教授）

古田 康造

（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋 剛

(高知市議会議員)

16:40 時期開催地挨拶

第3部 意見交換 18:00

第2日目 10月31日(木) 開会9:00

第4部 課題討議

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井 ゆづる

事例報告者 滝沢 一成 (上越市議会議員)

久坂 くにえ (鎌倉市議会議員)

小林 雄二 (周南市議会議員)

閉会式 11:00

第5部 視察 11:30 (自由参加)

開会の挨拶

○ 全国市議会議長会会長・大分市議会議員、野尻哲雄氏の開会挨拶をされた。

地方分権改革に伴い、市議会の役割と責任が高まる中、社会経済の急速な構造変化を背景に、継続的な自己改革に取り組み、議会の魅力を高め、住民の信頼を確保する必要がある。

今回のフォーラムでは、高知が生んだ坂本龍馬の「船中八策」にならない、現場の課題とその対応方策を考え、あわせてこれからの議会像・議員像について広く討議をしてまいりますと述べられた。

○ 高知市議会議員・田鍋剛氏から、高知市議会を代表してあいさつされた。

○ 高知市長・岡崎誠也氏が高知市長として歓迎のあいさつをされた。

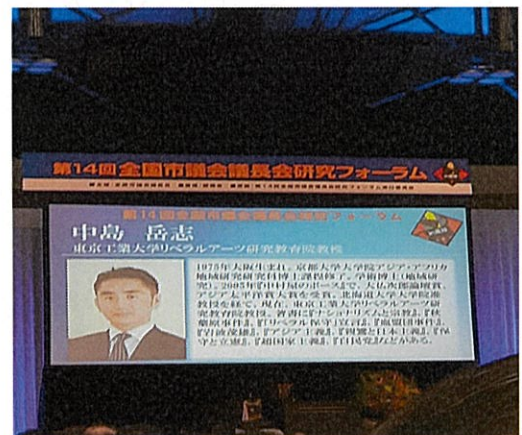
● 第1部 基調講演

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

中島 岳志 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

1・政治のマトリクスとは

私は政治学者として、学生に政治と歯を教える際に、政治は二つの仕事をしている、一つにお金を集める仕事、そして税金で集め、福祉に使うか、あるいは土木に使うかなどお金の出し入れ、もう一つは、お金に還元できない、例えば、選択的夫婦別性は是か非か、また、LGBTなどの性的マイノリティーの人たちの権利をどうするかという、



お金の問題でない価値観、価値認識の問題ということになる。学生には政治には、正常は大きな二つの仕事をしている。お金の問題と価値の問題をめぐって、政治という内政面においては展開しているというのが私の考えだ。

★ 配分をめぐり図として、縦軸にはお金の軸を、横軸には価値の軸を抛っている。

上には、セーフティーネット強化（リスクの社会）va 下には自己責任（リスクの個人化）—小さな政治というのをあげている。

リスクというのは、突然に難病にかかるとか、交通事故に遭ってしまうとか、私たち万人に降りかかってくるなど様々なリスクに直面いたします。

上には「リスクの社会」とは、リスクを社会全体で責任を持つ考え方で税金は高いがサービスができる

軸の、下には「リスクの個人化」は小さな政府。あまり税金は取らないがけど、公的サービスは一定程度縮小し、個人で責任を持つ考え方で税金は安い、個人人です

これに対抗するもう一つの考えは。

軸の、上には「リスクの社会」とは、リスクを社会全体で責任を持つ考え方で税金は高いがサービスも充実することができる

このお金の問題をめぐって、下側、上側で大きく政治の考え方が分かれる。

★ 価値をめぐる軸—横・・・×軸には

- ・ もう一つは価値の問題です。価値の問題は、一方に「リベラル」、また、反対が「パターナル」がある。
- ・ リベラルの考えは、もともと「寛容」という意味でスタートする。自分の考えと価値観が違う、自分と思想信条が異なる、そういう他者と全面的な戦争しても結論がつかめない、痛みばかりがお互いに深刻になる、その教訓から、自分と信条が違っても相手に対して寛容になるお互いを確認し合う。
- ・ リベラルの起源としての宗教戦争とは、ヨーロッパにおける30年戦争がある。ヨーロッパにおけるキリスト教の内部における価値観の表れで、カトリックとプロテスタントとの争いで決着がつかず、共有したものが、自分の価値観と違うことに戦うのではなく、認め合い確認し合うことにさせていただきました。「寛容」にすることをリベラルという。
- ・ これに対して反対語派の概念は、パターナル出、日本語に充てると「父権的」です。家父長的な体制で世界中でも強かった封建時代。強い権限、津陽力を持っている人間が価値のあり方について介入し選択していくというのが「パターナル」という。

★ 自民党の50年は、

- ・ 日本の政治の安倍内閣はどこだろうか。LGBTの人たちの権利の問題、選択的夫婦別姓の問題、先の戦争の歴史認識の問題、など様々な形で「パターナル」なタイプ。自由っていうものに積極的に容認する方向には舵を切らない。自分の政治信条はアンチリベラルである。

- ・父権的といえる。アンチリベラルと安倍政権はいえる。横軸、縦軸を交わる点から1, 2, 3, 4に分けると4のところに位置する。
- ・政府の基本は、幼稚園などを無償化し、大きなお金を出しているように見えるが、政治手法を国際的にみると、大きな政府か、小さな政府かで見るなら、
 - ①租税負担率です。税金が高いのか、収入源が多いのか小さいかという数字を見ます。高いほど大きな政府、小さければ小さいほど小さな政府となる。
 - ②全 GDP の国家財政と歳出を見る。土木工事にしる福祉事業にしる、いろんな形で国あるいは地方行政にお金を使う割合が大きければ大きい政府、小さければ小さい政府になります。
 - ③公務員数を見た時に、地方の自治体で非常に大きな問題になっているのが、非正規の職員の問題です。これから各自治体では非正規職員の割合が半分以上になる、そんな減少がどんどん出てくる。
 この3点の数値を国際比較した場合、日本は世界中の中では、指折り小さな政府に位置する。
- ・そのような国の現状があるということを我々は知っておく必要がある。いろんなお金を増やしたところで、平均値より上にはいかないのが今の自公政権の一つの特徴になっている。
- ・今日は自治体の方がおられるので、地方の自治体の公務員の非正規化が進んでいる。自治体によっては職員の約半分以上が非正規になっている。このことは自治体で大きな課題になっている災害に弱いといえる。これでは平均より上位には行けない。
- ・自民党政治の中枢にいた方で、60年代後半から70年代にかけて、田中角栄氏と大平正芳氏は対照的であったが、お互いを評価されていた、特に田中角栄さんという人だろう、或いはそのパートナーとして非常に重要なのが大平正芳という政治家でした。田中角栄さんは大平正芳さんの知的なところを評価されていた。
- ・田中角栄さんは、列島改造論で公共事業を拡大させるという大きな指針でした。60年代は高度成長時代に入り、自民党が強いには言われた地方部から都市部に人口が流入し、都市労働者が増加し、社会党が伸ばしてきたことから、保守の危機とも言われ、田中角栄氏は福祉政策を厚くした。ラインで行くと上のラインだ。
- ・この二人お互いにないところを埋め合うということができた。70年代の保守の危機といわれた時代に、自民党の強い基盤を安定させた。基本的には保守本流といってきた。現在の自民党は、必ずしも自民党の考えてきた保守本流の中核にあるかというと、むしろこの時代から見るとずれが来ているという問題がある。
- ・小泉内閣になって自民党は一気に上のラインをあきらめ下のラインへと「リスクに個人化」へと、党の党是というものを動かしていくことになり、「官から民へ」、「規制緩和」、「構造改革」などマーケティング至上主義といわれるようになった。

た。

★ ラディカルデモクラシーとポピュリズム

- ・物語の設定の重要性、①2017年10月の立憲民主党フィーバー。「枝野を立て」て、自分たちも声が直接に政治家を動かしていけるとして、「立憲民主党はあなたです」打ち出したが、自分たちの声が政治家を動かしてい置かないという疎外感を感じるため、2018年8月以降、支持率急落した。それに代わって、2019年のれいわ新撰組のフィーバーは、枝野さんとは違うものである。
- ・ラディカルデモクラシーには、政治学の中には概ね2つのパターンがある。
 - ①熟議デモクラシーとは、地地方政治にみられる市政や区、或いは様々な小さな自治体の基礎的な政治に反映させていく、住民が直接的な形で政治というものに参加する。町全体が自分たち手でという公共的な精神と言うのが養われていくという民主主義のある種の原形初期的な形態である。
 - ②闘技デモクラシーとは、あれは違う、あの政治は間違っている俺だったらうする明確は対抗軸を見せ、多くに民衆の情動的な面、感情的なものを起動させていくこと、一緒に盛り上げていく、その敵に対して、対抗者に対して向かっていく、これに対して強う言葉で迫っていく、戦いを挑んでいくそのような形でもう一票に何の価値があるだろうというふうに考える人たちを立ち上がらせていく。

★ 保守とは何か

- ・保守するための改革は、守るためには変わらなければいけない、これが保守するための改革です。
- ・「伝統主義」と「保守主義」我々は、普遍的な人間の本性として、伝統的主義と、ひとつの特色な歴史的・近代現象として保守主義とか区別する。
- ・私たちの現在、膨大な過去の蓄積・知的財産の上に成立している。改革とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整。
- ・自分と異なる人の声に耳を傾け、合意形成が始まるこれが保守政治だ。私が尊敬する政治家は、大平正芳氏という人です。或いは彼のパートナーでもう一人の側近であった、伊東正義という人です私は大変尊敬しています。
- ・大平正芳さんの言葉に「政治は60店でなければならない」という言葉がある。100点を取ることは基本的には自分は間違っていない。自分たちが正義である。正しさを持っていると考えるならば、異論を唱える人たちを様々な形で牢獄に追いやった歴史、ソ連の歴史、中国の毛沢東の政治の中にあつた要素でした。
- ・現在の日本共産党は、そのスターリン時代のソ連を強く否定しているが20世の共産主義国の中には暴力的な、事由という銃を収奪していく政治が続いた。
- ・大平正芳という人は保守の本流。保守思想というもののエッセンスを考えるなら、必然的にリベラルという観念に行き着く。
- ・リベラルという保守というものが一つの重要なタグを組んだ時、現在の自民党

に対して、野党がもう一個の舟を浮かべるならば、選択肢をつくろうというのであれば、あの宏池会の人たちが担ってきたゾーン、革新でなくしっかりとした保守ラインとして位置づけることによって、重要なリスクとして求められるのではないかと考えている。ということを表示し講演が締めくくられ終わった。

● 第2部 パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」の概要

コーディネーター 坪井 ゆづる 朝日新聞論説委員)

パネリスト

高部 正男 (市町村職員中央研修所所長)

横田 響子 ((株) コラボラボ代表取締役

お茶の水女子大学客員准教授)

古田 康造 (高松丸亀町商店街振興組合理事長)

田鍋 剛 (高知市議会議長)

はじめに、各パネリストの自己紹介から始まり、

★ コーディネーター 坪井 ゆづる 朝日新聞論説委員) からは、議会は地方政治の「自治の主役」であり、議会は市長に比べて、予讃や事業の採否などの最終決定権を握っているなど、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。責任も重い全ての議決にあたって公明正大で説明可能な判断は求められる。



世論は実に厳しい、いまだに自治の主役の自覚に欠けている議員が存在しているという「議会不信」が根強くあることには否定できない。高い議会を実現してゆくための具体策を考えるフォーラムにしていきたい、名付けて「議会活性化のための船中八策」にしたいと述べられた。

★ パネリスト高部 正男 (市町村職員中央研修所所長) からは、①市議会についての現状認識として、議会基本条例制定率は60.8% 議会報告率は53.7%の現状であるが改革への取り組みは広がってきている。また、自治体議会の指摘する点として、投票率が低い、全国では無投票当選が増加している。議員構成の架と寄りとして、女性・若者の参加が低い。②自治体議会をめぐる状況変化として、市長総合併により市町村議会の議員数の減少、議会活動についての厳格化、運営についての細部にわたる規制などで議会運営の弾力化に変化が出ている。③早期に検討すべき事項として、兼職・兼業の弾力化、労働法制の見直しなどが言われていた。

★ パネリスト横田 響子 ((株) コラボラボ代表取締役 (お茶の水女子大学客員准教授) からは、議会に必要なこととして、20年後の住民は幸せですか、議会で求めて数字や事柄などがやりっぱなしになっていないか。若手や・女性の参加がなどを巻き込んで街を活性化する策を模索する。中長期視点でまちを目指す方向を議論する、ためにガチン

コ会議を多様な人材で実施。住民参加の事業仕分けなど接触機会を増やす、土日を活用するなどが言われた。

- ★ パネリスト古田 康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）からは、高松丸亀町のまちづくり戦略として、住宅整備とテナントミックスは車の両輪として、土地の所有と利用を分離した市中心部の土地の有効活用には、全国の市街地に存在する商店街は、大店舗法などの規制緩和により、商業環境の大きな変化により、シャッター通りと化し、地方都市の税収を圧迫する大きな要因となる。国策を痛める大きな原因ともなっている。

この土地問題を解決する手法として、「土地の所有と利用権と使用権の分離」である。

土地の使用権をまちづくり会社が、すべての商店の地権者と「定期借地権契約」を締結し、使用権を取得し建物を整備・商有する。自分たちの街を自分達で自らリスクを負い自治権をもって運営する、新しい自治組織をつくりこれからの人口減・高齢社会に対応したまちづくりを実現させていく初めての施策である。この商店街の再開発が軌道に乗ることができたのは、地域コミュニティが現存している土台があったからであり、地域コミュニティが破壊しておれば開発は不可能であったといわれとされていた。



- ★ パネリスト田鍋 剛（高知市議会議長）は、高知議会の概要や歴史・文化・人口などが紹介された。

第2日目 10月31日（木） 開会9：00

第4部 課題討議の概要について

はじめに、各事例報告者の紹介から始まった。

- ★ コーディネーター 坪井 ゆづる氏の方から、地方議会の実態のけるアンケートを、2014年から4年に一度の統一地方選に合わせ実施をしている中で、全国1788議会に、全てから回答を得て、結果を報じていることが紹介され、地方議会の課題について。

- 「女性議員」に焦点を当て、
議会選挙で男女候補者数ができる限り「均等」になるように政党に求める法律が昨年施行された。結果市議会で見れば36議会（4.4%）が「女性ゼロ」が存在する。
- 「なり手不足問題」については、
どう打開をしてゆくかが課題になっている。
- 「議会基本条例」については

を策定している議会は519議会（63.7%）に上り、基本条例に標準装備化が進んでいる。

●「報酬」について

この4年間で、報酬を増額した議会は400議会、減らした49議会、政令都市を除く市議会と特別区では166議会が増額している。議員専業で暮らしていける報酬にするなどの課題

●「3ない議会」について

(1)首長提案議案に対し、否決・修正もしていない

(2)議員提案に政策条例をひとつもしていない

(3)議員個人の賛否を公開していない

などの3項目を重視していくことはあるべき議会像を実践していくことで三ない議会の解消に向けた課題についての課題考える必要がある。

などの課題について考えとし討議に入られた。



★ 事例報告者 滝沢 一成（上越市議会議員）からは、我々市議会が一昨年、どうしたら若い方、あるいは女性の方が市議になってもらえるのか、「市議を目指しやすい環境整備検討委員会」の設置し、市議を目指しやすい環境整備への提言の報告をせよといわれている。

▼ 阻害要因として

心理的要因としているが―「議会の存在価値、やり甲斐、面白さ、全然感じません」というのを解決していかなければいけない。

選挙の困難さの解決―公職選挙法に改善を国会に求める。

物理的課題の解決 ―選挙費用

議員報酬の適正化

社会保障の充実

政務活動費の見直し

議員定数の検討

取り巻く環境の解決―地域環境の整備

家族の理解や女性であれば女性特有の場部ば解決

人材育成

女性特有の壁の打開―意識改革・啓発活動

バックアップの体制の整備

クォーター制度（女性の割合を、あらかじめ決めて積極的に起用する制度）の検討などを展開されていた。

▼ こうした課題に向け、意見交換、議会モニター制度を取入れ、アンケートモニター、会議に集まってもらい30人のコアモニターです。女性フォーラムなど

や中学生も議集会など取り組んできた中で、議会改革推進こそ議員を目指す人々を獲得する力だと議会は信じています。

- ★ 事例報告者 久坂 くにえ（鎌倉市議会議員）からは、鎌倉市議で初めて現職で出産した女性議員からの、現職で出産及び育児をしながら、議員活動が続けられるにあたっての壁など、現状の会議規則や産前産後休暇、保育のあり方などの視点から議論を展開された。

顕在化した課題

▼ 会議規則

- (1) 出産に伴う議会欠席に関する規定についての取得期間及び運用についての明記がない。
- (2) 労働法制の産前6週間、産後8週間の休暇取得、母体の保護のための期間の明示がない



▼ 会議運営

多様なバックグラウンドを抱える議員に配慮がない。などの現状の課題が報告され、環境整備に向け

- ① 出産に伴う議会の欠席に関する規定について、取得期間及び運用についての考え方の明示が必要。
- ② 子の介護休暇に関する規定の整備
- ③ 配偶者出産休暇の取得
- ④ IPU「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に則った、議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備また改善。など女性の議会議員としての環境整備を訴えられていた。

- ★ 事前報告者 小林 雄二（周南市議会議長）からは、平成15年4月21日に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併し、人口14万3千人で、広さ656平方キロメートル、北は中国山地、南は瀬戸内海で有数の石油コンビナート化学コンビナートが形成する地とされ、山口県周南市議会の事例報告として、周南市合併誕生後の議員報酬制度の一本化で、全議員78名の議員報酬を一番高い旧徳山市に合わせたことに端を発し、最終的に市民グループからの議会解散の請求がされ、住民投票の結果、賛成票が反対票を上回り、平成16年5月16日に周南市議会は即日解散することとなった。そのご議会解散までの経過の報告、出直し選挙後の「議会改革の歩み」の積極的な取り組報告や行政監視機能の充実としては、「市民により開かれた市議会」として「公開」と「対話」をキーワードとして議会改革への市民の参画を促すとともに議会に関心を持ってもらう事をテーマとして掲げ、

- ① 所管事務調査の積極的活用

② 所管事務調査による「指定管理者制度に関する調査」の実施

③ 100 条委員会の開催

などを、テーマ11項目、「議員の資質向上を目指して」10項目について協議してきたことの実例報告がされていた。

所見

高知県は、東西に長い四国の南部、太平洋から四国山地の尾根までの範囲で、香長平野と四万十市周辺が広い平野がある他、ほとんどが海近くまで山がせまる典型的な山国で、産地率は86%と全国平均の66%に比べ険しさが示されている。気候は温暖多雨で台風の襲来も多く、太平洋に突き出た足摺岬・室戸岬は強風で知られている。

高知が生んだ有名人には、坂本龍馬は「土佐藩」で幕末には、下層階級の「郷土」が幕末にまとめた新しい国家構想を長崎から出発して上京する船中にて示したとされる、大政奉還・議会設置・大典制定・海軍拡張・諸外国との国交樹立場度8か条を後藤像二郎に示したとされる政策の「船中八策」にならい、「議会活性化のための船中八策」をテーマに高知県・高知ちばさんセンターで、第14回全国市議会議長会研究フォーラムが、北海道から沖縄まで、全国の市議会議長をはじめ市議会議員など2300名の参加で開催された。

会場は、2,300人が一同が入れて、開催ができる大きな会場であり、司会の方の声も少し聞きにくい状況の中で全国市議会議長会研究フォーラムが始まった。

はじめに、主催者を代表して全国議会議長会長・大分市議会議長野尻哲雄氏より、議会が魅力を高め、多様化する民意を市政に反映し、住民の信頼を確保する必要性から、今回のフォーラムでは、高知が生んだ坂本龍馬の「船中八策」にならい、ここ高知市で開催したと挨拶から始まった。

第1部 基調講演「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」中島 岳志 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の講演は、リベラルとは何ぞやから始まった。また、自民党が日本の政治をつかさどる中で、過去の自民党政治の首相の人物像や国を預かるものとして、何が重要で何が必要かをしっかりと導き出されていたことの講演を受けた。

最近の日本の政治については、選挙制度が中選挙区選挙から小選挙区に変わり、最近のトップは勝つためには手段を選ばずという形で、劇場型の政策で、政権のトップの考え、政策を推し進めるためには、攻撃をする政党を誹謗中傷し、同じ同胞でも刺客を送り政権を維持するような姿勢、また、最近では、人事権を握りなが



ら政権を維持のため、官僚の忖度政治、文書改ざんやごまかし政治などが見て取るなど、選挙制度に由来する政治の流れなどからくる政治であるとの講演を受けて感じる事ができた。

私は、講演の中で、人間は間違いがしやすい動物である、間違いのないものはないという考えです。ある種の理想社会を革命によってつくことは不可能である。それよりも長い歴史によって英知に従いながら、「永遠の微調整」をやっていくことこそが重要であるというのは、自分と異なる意見を持ち主張する人がいるならば、その人の声に耳を傾け、その結果、その人は少数者かもしれない、しかしそこにはその人なりの論理と理があると考え、何が起きるかというところで合意形成が始まっていくことになる、落としどころを探り、みんなで議論をしっかりとしながら何かの政治決定をなしていく、これが保守政治というものの王道的な政治のあり方ということになる。「寛容の政治」が今こそ必要であり、民主主義を取り戻すことにつながると感じた。

パネルディスカッションでは、会場が広すぎてよく聞き取りができない状況の中でしたが、パネラーは議会に対する思いを述べられておる、実際に市議会議員として議会運営をしているものからすると、少し違和感を覚えた。

一方で、課題討議の、事例報告者は市議会で実践されてきたてきた事柄などで、これからの議会のあり方として、特に、若い世代に議員や女性にも議員として活躍できる環境で庫裡が必要と感じた。特に「議会と子育て」ができる環境整備、議会の運営規定、規則の中にどう入れていくのかということは、議会で十分に議論する必要があると考える。また、市議会議員が市民の中にどのように繋がりをも基、議会の活動の理解を深めるのかなど、報告者の声は参考になる部分が多くあったと感じている。京丹後市議会に中でも議員の子育てできる環境整備など事例の取り組みを活かせるのではないかと感じた。今回の全国市議会議長会研究フォーラム参加は初めてでありよかったと思うが、ただ会場が大きすぎて2, 300人の参加する中でざわめきもあり、マイクから聞こえてくる声も少し聞きにくかったと思います